

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：64401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K21097

研究課題名(和文) アフリカ障害者の生活基盤に関する地域研究

研究課題名(英文) Area Studies on the Livelihoods of Persons with Disabilities in Africa

研究代表者

戸田 美佳子 (TODA, MIKAKO)

国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・機関研究員

研究者番号：20722466

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：アフリカの障害者の生活様式は、彼らが暮らす生態環境に加えて、イスラームとキリスト教が広がってきた歴史的プロセスを通じて変化している。障害の社会モデルにたった開発を実施するには、諸社会の特徴を踏まえることが肝要である。本研究では、カメルーン共和国及びコンゴ共和国、コンゴ民主共和国において障害者の生業に関する資源マッピングを作成し、彼らのライフコースをとおした地域史を再編した。その結果、国家や地域社会を越えた障害者の生業維持基盤があることが明らかになった。最後に、アフリカにおいては国家の枠を超えた障害者の移動を含めた「障害と開発」のパラダイムづくりが必要であることを指摘した。

研究成果の概要(英文)：The lifestyles of persons with disabilities living in Africa have been changing throughout the historical spread of Islam and Christianity and are impacted by the ecologies in which these individuals live. With respect to the social model of disability, it is important to consider the characteristics of multilayered African societies. Therefore, this study created mapping resources for persons with disabilities in Cameroon, the Republic of the Congo, and Democratic Republic of Congo. As a result, I discovered that some of the resources that contribute to the lives of those living with disabilities have something born due to their spatial extent. In addition, I have pointed out that there is a foundation for maintaining the livelihoods of disabled individuals across both countries and communities, and that it is necessary to create a paradigm for "disability and development," including the movement of persons with disabilities beyond national boundaries.

研究分野：人類学、アフリカ地域研究

キーワード：障害者 生業 ケア アフリカ 越境

1. 研究開始当初の背景

アフリカに暮らす 10 億人のうち、心身の機能的な障害をもつ人びと（身体、精神、および重複障害）は 3~10%とされ、その数は少なくとも 3~5 千万人と見積もられている。現在のアフリカにおいて身体的な障害を引き起こす要因は、工業化にともなう環境汚染や交通事故、感染症、紛争など多岐にわたっており、貧困と強く結びついている。このようなことから、近年、開発分野においても障害者問題が注目を集めつつあり、実践への架け橋となるような当事者の視点に立った実証的な研究が求められている。

アフリカ諸国における障害者に対する支援は、近年西欧から持ち込まれたものあり、国家としての対策が十分に個々の障害者世帯に届いている状況とはいえない。このことを背景に、これまでマスメディアは、貧しさゆえに他者を顧みる余裕がなく、弱者を放置している「ケアしないアフリカ」というイメージを発信してきた。さらに国際機関を通じて、アフリカでは、障害を「呪い」や「罪」と結びつける考えのために、障害者が外部に対して隠蔽され、コミュニティから放置されているという「隠された障害者」像が報告されてきた(Ingstad 1997, 1999)。それに対してアフリカでフィールドワークをおこなった研究者たちは、彼ら障害者は物理的な困難を抱えていることは事実だが、だからこそ相互の関係のなかで生きているという姿を提示している(戸田 2015 ほか)。アフリカの人びとがどのように障害を経験し、社会のなかで生活を営んでいるのかを実証的に明らかにすることが火急の課題となっている。

2. 研究の目的

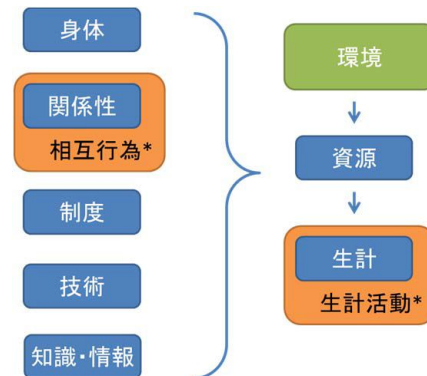
本研究の目的は、異なる生活基盤のなかで生計を維持する障害者に焦点を当て、彼ら障害者に関わる資源を地図化する中で、それがどのように地域的な広がりをもっているのか、もしくは変容しているのかを可視化し、その地域特性を描くことにある。

3. 研究の方法

コンゴ盆地に広がる熱帯雨林における狩猟採集、疎開林帯における農耕、作物が育たない乾燥帯での牧畜や狩猟採集。アフリカに暮らす障害者の生活様式もまた、多様な生態的な環境に根ざした生業によってその様相は変化に富んでいる。そして歴史のプロセスによって形作られてきたイスラーム圏とキリスト教圏では、障害者の暮らしは異なることが想定される。そのため本研究では、国別ではなく環境別に障害者の生計調査を実施する。

本研究は、障害者が営む生業の場面に焦点を当て、彼ら障害者の生活世界を明らかにしていく。図 1 で示すとおり、障害者の資源には身体、関係性、制度、知識・技術があげられる。これまでの医学的なアプローチでは、障

害を身体と技術のみの視点で捉えるのに対し、障害者の社会モデルにたったアプローチでは制度と技術のみを議論の対象としてきたと言える。それに対して本研究は、生態人類学的スコープをとおして、具体的な場面で、環境から、資源を得る作業である生計活動を観察し、これらの作業を支える相互行為であるケアをも分析していく。



* : 具体的な場面で、観察できる項目

図 1. 生態人類学的スコープをととした障害者の生計研究の手法

4. 研究成果

初年(2015)度は、「ミニ・アフリカ」とも呼ばれるカメルーン共和国において、首都ヤウンデ市および東部キリスト教圏の農村地域で現地調査を実施し、障害者の資源マッピングに必要なデータを収集した。

(1) カメルーン森林地域の身体障害者

まず、カメルーン東部熱帯雨林地域の農村部を対象に、狩猟採集民バカ・ピグミーと近隣農耕民という、大きく異なるエスニック集団の関係性に着目し、そのなかでの身体に障害のある人びとの生活実践を調査した。これまでの広域調査の結果から、農耕民の身体障害者は、本人および同居する家族によって生計が成り立っていることが明らかになった(戸田 2011, 2015)。特に、身体障害をもつ農耕民男性は大多数がカカオ畑を所有していた。一方で、狩猟採集民バカは、同集落の父系関係で繋がった兄弟や家族などからの世帯を超えた広範な分配に依存することによって生計が維持されていた。

調査地においては障害をもつ・もたないにかかわらず展開している活動とは、環境から資源を得て暮らしを成り立たせる営み、すなわち生業であり、それは親族関係や地域集団の柔軟な相互関係のなかでおこなわれている。ただ、身体的な障害をもつ人びとが生業活動を営むためにはそれ以外の他者からの手助けがやはり不可欠である。そこで、狩猟採集民と農耕民という集団を越境した関係が重要となっていた。

とするならば、障害者の生業は、狩猟採集民と農耕民の混住によって実践できているという事実がある。ただし、このような生業

活動におけるインター・エスニックな関係は、定住化が進んだ 1950 年代以降の現象といえる。

そこで本研究では、次に調査地における社会的背景と地域の歴史的背景のなかで、障害者の実態を把握していくことを試みた。

(2) 生業活動とその歴史性

調査地では、1930年代から50年代にかけて実施された定住化と同時期におきたカカオ栽培の開始によって、現金獲得源の創出や農作業の性別分業、そして農耕民との間の雇用関係を生み出され、地域集団のなかで、生計活動や日常生活におけるさまざまな手助けに対して、その対価を支払うことを可能にしてきた。それが現在、障害者が生業活動のための社会的なネットワークを獲得する、ひとつの手段となっていた。

さらに近年、カメルーン森林地域の障害者も外部社会との関係を深めつつある。この地域では、1970年代に宣教師によるチャリティが普及し、障害者施設の建設（および慈善施設ケア）が進んできた。それにより、農村部の障害者も病（障害）の治療（リハビリテーション）のための移動が促されている。さらに1990年以降には、先住民運動の活発化とも連動し、身体障害をもつバカの子どもに対する「マイノリティ（狩猟採集民）のなかのマイノリティ（障害者）」のための慈善活動がおこなわれている。それは同じ地域に暮らす狩猟採集民バカと農耕民に、「支援の対象となるバカの障害者」と「それ以外の障害者」という新たな枠組みをつくり出している。こうした2つの集団間につくられた新たな線引きは、狩猟採集民と農耕民のインター・エスニックな関係性のなかで生活してきた障害者の生業実践に影響を与えつつあることが示唆された。

(3) 首都ヤウンデに集まる障害者の生計

障害者を地域集団内部でのみ捉えることの困難になりつつある現状を踏まえ、外部アクター（慈善団体、宣教師、政府など）の影響を受けて移動する障害者の実態を理解するために、カメルーンの首都ヤウンデに舞台を移し、そこに居住する障害者たちの生活実践を調査した。

首都ヤウンデは、障害者のための医療施設や教育提供の場が集中している。その結果、都市部へと障害者が流入しており、全国の障害者団体の30%がヤウンデにある。そこで、流動的で多様な生活背景をもつ人びとが集まる都市において、障害者たちは誰を頼りとし、どのように生活を成り立たせているのかについて調査した。

カメルーン法律において、生計手段もしくは求職、施しを乞うための物乞いは刑に処される（刑法245, 246）。さらに、ヤウンデ市は2003年に交差点で物売りや物乞いすることを禁止する条例を施行している。しかし

ヤウンデでは、物乞いを生活に糧とする障害者を日常的な光景として目にする。

そこで2009年9月のラマダーン（断食月）に首都ヤウンデで実施した調査データと、2016年8月に実施した調査データを比較しながら、より近年に顕著になった問題として、イスラームとキリスト教が広がるにつれて徐々に地場を獲得していった弱者と慈善に関する言説について分析した。

2009年と2016年の現地調査より、町中で物乞いをしていた人びとの約8割が何らかの身体障害を抱えていたことが明らかになった。彼らの多くはカメルーン北部からナイジェリア北部に居住するムスリムであり、その7割が1年未満の短期滞在者であった。

ヤウンデはキリスト教圏ではあるが、サブサハラと森林地域を繋ぐ都市として発展してきたために、彼らに対して寄付を施すムスリム地区がある。これらの資源が、物乞いがヤウンデに集まる要因となっていると考えられる。このように、物乞い障害者は、お金をもとめ、周辺国に比べて安定した国であるカメルーンを訪れた「よそ者(étrangers)」であった。生活に困窮した人びとや家族を多く養う必要のある人びとが、情動的であれ、サブサハラから中部アフリカの熱帯林地域にわたる自然環境を行き来し、異なる生活基盤のなかで生計を維持してきた。

他方で、2016年8月のラマダーン明けの現地調査ではこうした状況に変化が見られた。そのひとつがナイジェリア北部の過激派武装集団の影響により、非障害者の物乞いの数が増え、3年を超える滞在者が現れてきた。

(4) 国家政策と障害者—コンゴを中心に

アフリカにおける障害者政策は国により格差が広がっている。例えば、中央集権的かつ市民社会の行動の自由を制限する体制をとるエチオピア（西2016）や、南アフリカのように政府の制度が整備されている国（牧野2016）もあれば、全く整っていないコンゴ民主共和国やコンゴ共和国がある。とくに両コンゴは近年まで、紛争を経験し、現在も政治・社会的に不安定な状況にある。このような経験が障害者の生計活動にどのように影響しているのかについて、2014年度から2017年度まで断続的に、コンゴ民主共和国とコンゴ共和国において現地調査を実施した。

2014年以前、両コンゴの障害者は障害当事者団体が発行する障害者手帳を用いた非公式の障害者優遇措置を利用して、自律的なビジネスを実施していた。彼ら障害者はあいまいな制度のなかで商才を発揮し、30年もビジネスを維持してきた。こうして収入を得るすべを見つけた障害者の周辺では、介助者は被雇用関係として機能しており、障害の社会モデルでいう「無力化する社会(Disabling Society)」とは逆に、障害当事者が活躍する状況が生まれていた。

しかし突如、2014年4月にブラザヴィル市警察当局が実施した治安維持のためのオペレーション(「バタ・ヤ・バコロ」)によって、両国の行き来が強制的に遮断された。規制が厳しくなると、障害者は非障害者以上に大きな影響を受けて、彼らの生活が立ち行かなくなっていた。こうした状況は2014年以降、2018年現在まで続いている。このように障害者が担ってきたコンゴ川の国境ビジネスには、両国家の仕組みが垣間みえる。

(5) まとめ

本研究では、カメルーンの森や村に暮らす障害者がいかに生態環境や社会的境界を横断しながら、独自の生計手段を確立しているのかに焦点を当てて調査をしてきた(研究成果(1)と(2))。また生活手段を求めてサブサハラから熱帯雨林地域にわたる自然環境を行き来し、異なる生活基盤のなかで生計を維持するムスリムの身体障害者や国境をまたぎビジネスを営むコンゴの身体障害者と出会ってきた(研究成果(3)と(4))。このような調査をとおして、アフリカの障害者の生活の糧となる資源のなかには、空間的に広がりをもっていることで生まれるものがあることがわかってきた。国家や地域社会を越えた、アフリカの障害者の生業維持基盤があり、国家の枠を超えた障害者の移動を含めた「障害と開発」のパラダイムづくりが必要であるとの認識に達した。

また障害者の生活様式は、所属する社会集団や生活文化によって異なっていた。人びとが生活の糧をえるためおこなう生業(生計)活動とは、環境から資源を産出する/得る営為であると同時に、それが個別の文化のなかで独自の形に社会的に組織され、固有の意味づけや文化的拘束のもとにおこなわれる活動でもあった。図1に示したとおり、障害者の資源には身体、関係性、制度、技術、知識・情報があげられる。研究成果(4)の「バタ・ヤ・バコロ」オペレーションによる障害者ビジネスの変化もまた、国家制度が障害者の生業(生計)に関わる資源に変化を及ぼした一例といえる。制度を含めた障害者の資源マッピングを描くことを今後の課題とした。

<引用文献>

- Ingstad, B. 1997 *Community-Based Rehabilitation in Botswana: The Myth of the Hidden Disabled*. Lewiston: Edwin Mellen Press.
- Ingstad, B. 1999 *The Myth of Disability in Developing Nations*. The Lancet 354: 757-758.
- 戸田美佳子 2011「アフリカに『ケア』はあるか? カメルーン東南部熱帯林に生きる身体障害者の視点から」『アジア・アフリカ地域研究』10(2): 176-219.
- 戸田美佳子 2015『越境する障害者—アフリカ熱帯林に暮らす障害者の民族誌』, 明石書店。
- 西真如 2016「開発主義体制下のエチオピアにお

ける保健政策と HIV 陽性者・障害者のニーズ」森壮也編『アフリカの「障害と開発」—SDGs に向けて』アジア経済研究所 pp. 85-117

牧野久美子 2016「南アフリカの障害者政策と障害者運動」森壮也編『アフリカの「障害と開発」—SDGs に向けて』アジア経済研究所, pp. 237-273.

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 9件)

Toda, M. 2017 Disability and Charity among Hunter-gatherers and Farmers in Cameroon. *Senri Ethnological Reports* :143, 69-94. (査読有)

戸田美佳子 2017「評論・展望 アフリカにおける障害者の生活世界 その地域性と歴史性」『民博通信』159: 4-9. (査読無)

戸田美佳子 2017「作業療法を深める⑤ アフリカの障害者 カメルーン熱帯雨林に暮らす障害者からの学び」『作業療法ジャーナル』51(3): 231-234. (査読無)

戸田美佳子 2017「書評リプライ 戸田美佳子著『越境する障害者—アフリカ熱帯林に暮らす障害者の民族誌』明石書店」『障害学研究』12: 174-183. (査読無)

Olivero, J., J. E. Fa, M. A. Farfan, J. Lewis, B. Hewlett, T. Breuer, G. M. Carpaneto, M. Fernandez, F. Germi, S. Hattori, J. Head, M. Ichikawa, K. Kitanaiishi, J. Knights, N. Matsuura, A. Migliano, B. Nese, A. Noss, D. O. Ekoumou, P. Paulin, R. Real, M. Riddell, E. G. J. Stevenson, M. Toda, J. M. Vargas, H. Yasuoka, R. Nasi. 2016 Distribution and numbers of Pygmies in Central African forests. *PLoS ONE* 11(1): e0144499. <http://journals.plos.org/plosone/article/file?id=10.1371/journal.pone.0144499&type=printable> (査読有)

戸田美佳子 2016「海外研究動向: 障害研究の世界的展開」『民博通信』155: 24. (査読無)

関野文子・戸田美佳子 2016「学界通信 狩猟採集民研究 50年目の再注目 第11回国際狩猟採集社会会議(2015年9月7日~11日、於:ウィーン大学)参加報告」『アフリカ研究』89: 47-49. (査読無)

戸田美佳子 2016「人間学のキーワードケア」『月刊みんぱく』40(1): 20. (査読無)

戸田美佳子 2015「アフリカの障害者を研究すること」『アフリカ Now』104: 6-9. (査読無)

[学会発表](計 8件)

戸田美佳子「コンゴ川の国境ビジネスからみる障害者と国家の関係」フォーラム「アフリカの『障害と開発』」日本アフリカ学会第53回学術大会, 日本大学, 神奈

川, 2016年6月4日.

戸田美佳子「アフリカ熱帯林における身体と資源利用—障害者の生態人類学的理解に着目して」第16回教育・学習の人類学セミナー『『障害者』の立場から教育・学習の基盤を再考する—日本とアフリカの文化的・生態学的フィールドワークの実践から』, 京都大学, 2016年2月11日.

戸田美佳子「障害者をととしてアフリカ社会を紐解く—カメルーン共和国を事例に」第9回アフリカ研究自主セミナー, 関西大学千里山キャンパス, 2015年10月16日.

Toda, M. 'Disability and the Life Course among the Hunter-gatherers and Agriculturalists living in Cameroon,' International Symposium "How Do Biomedicines Shape Life, Sociality and Landscape?," National Museum of Ethnology, 2015年9月26日.

Toda, M. 'People with Disabilities Crossing the Boundary between Hunter Gatherer and Agricultural Societies,' 11th International Conference on Hunting and Gathering Societies (CHaGS 11), Session: "Hunter-gatherer Affluence: Social and Material Perspectives," University of Vienna, Vienna, 2015年9月8日.

戸田美佳子「越境する障害者—アフリカ熱帯林に暮らす障害者の民族誌」第211回地域研究会・2014年度総長裁量経費(若手研究者に係る出版助成事業)・アフリカ研究出版助成記念講演, 京都大学, 2015年6月18日.

戸田美佳子「アフリカにおける障害者とビジネス—コンゴ川の国境貿易を例に」セッション『アフリカの障害と開発』(代表: アジア経済研究所・森壮也氏) 国際開発学会第16回春季大会, 法政大学, 2015年6月7日.

戸田美佳子「国境をまたぐ障害者—コンゴ川における障害者の国境ビジネスの展開」日本アフリカ学会第52回学術大会, 犬山国際観光センターフロイデ, 2015年5月24日.

〔図書〕(計 2件)

Hamada, A. & Toda, M. (eds.) 2017 *How Do Biomedicines Shape People's Lives, Socialities and Landscapes?* (Senri Ethnological Reports 143), Osaka: National Museum of Ethnology. (査読有)

戸田美佳子 2016「国境をまたぐ障害者—コンゴ川の障害者ビジネスと国家」森壮也編『アフリカの「障害と開発」—SDGsに向けて』(研究双書 No.622) アジア経済研究所, pp.153-193. (査読有)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0件)

○取得状況(計 0件)

〔その他〕

ホームページ等

Cameroon field station スタッフ プロフィール
<http://jambo.africa.kyoto-u.ac.jp/cgi-bin/CameroonFS/wiki.cgi?page=%B8%CD%C5%C4+%C8%FE%B2%C2%BB%D2>

6. 研究組織

(1)研究代表者

戸田 美佳子 (TODA, Mikako)

国立民族学博物館・学術資源研究開発センター・機関研究員

研究者番号: 20722466